議　事　録

会議名称	第４回小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定アドバイザリーボード
日　　時	令和６年１０月２９日（火）　１６時～１８時
場　　所	市役所６階会議室
出 席 者	（順不同） アドバイザー２名 　安岡 美佳氏（デンマークロスキレ大学准教授）※オンライン参加 　吉田 良晴氏（九九谷代表） 事務局（市長公室未来型図書館づくり推進チーム） 　横山、髙橋、林、竹内、中山 支援業務受託者（アカデミック・リソース・ガイド株式会社、株式会社日本総合研究所（以下「ＪＶ」）） 　李、有尾、江頭　※オンライン参加
次　　第	１．基本計画の策定について 　①図書館機能、博物館機能、市民交流・活動機能 　②配置計画（ゾーニング図）案 ２．リビングラボについて 　①第３回リビングラボ開催報告 　②第４回リビングラボ企画案 　③ティーンズ版リビングラボ ３．マーケット・サウンディング調査の結果について
配布資料	【資料１】複合施設機能の概要_図書館・博物館・市民交流活動機能 【資料２】配置計画（ゾーニング図）案 【資料３】第３回リビングラボ開催報告 【資料４】第４回リビングラボ企画案について 【資料５】ティーンズ版リビングラボについて 【資料６】マーケット・サウンディング調査の結果

＜会議内容は下記のとおり＞

1. 議事

（１）基本計画の策定について

①図書館機能、博物館機能、市民交流・活動機能

資料１に基づき、ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

吉田氏	図書館機能と博物館機能の融合のための具体的な取り組みに向けたテーマとして、「こまつのものがたり こまつのものづくり」が提案されているが、このテーマのもと定期的に展示トピックを変えていくことになるのか。
ＪＶ 李	そのように考えている。テーマの中身ともうまく関連付けながら、未来型図書館は「ものがたり」と「ものづくり」の両方にフォーカスを当てていけると良いのではないかと考えている。
吉田氏	「アウトリーチ機能」とはどのような機能か。
ＪＶ 李	施設に直接行くことができない、あるいはデジタルサービスを利用することが困難な方々へのサービスを想定している。まちなかの様々な場所にサテライトライブラリーを設置し、新たな交流を創出する「まちじゅう図書館」や、岩手県紫波町にて実施している農業従事者への学びのプログラム「出張としょかん」のような可能性があると考えており、施設の外へ出向いて提供するサービスが該当する。実現性についてはコストも鑑みながら検討していきたいと考えている。
吉田氏	多目的スペースや会議室等のスペースはどのようなものを想定しているか。
ＪＶ 李	第３回のリビングラボの結果も踏まえ、ゾーニングの検討も始まっている。リビングラボの結果からも、閉じた箱型の空間ではなく、開いた空間が良いのではないかという市民の声も挙がっている。また、一つひとつの部屋単位で考えるのではなく、空間同士の関係性を踏まえて検討していく必要もあり、詳細については設計段階での検討事項となってくる。
吉田氏	多くの人が望んでいるカフェの機能はどのように検討しているか。未来型図書館の中でカフェはどのように存在していくことになるのか。
ＪＶ 李	未来型図書館は、官民連携によって一体的な運営を行っていく方針で検討を進めている。カフェもその一部として、全体的なサービスと連続した検討は可能かと思う。また、カフェは経済だけでなく文化の側面があることにも留意が必要。小松市の未来型図書館においては、芦城公園やまちとのつながりも踏まえ、その理念にふさわしいカフェのあり方を基本計画のなかでもしっかり示していきたいと考えている。
事務局 髙橋	リビングラボの結果からも、カフェに期待される役割は大きいという印象である。多機能との親和性が高いのではないかと考えており、カフェは施設全体のなかでの重要な機能として検討を進めていきたい。

安岡氏	空間に入りやすくする仕組みや、居心地よくするデザインの工夫というものは検討する必要があるのではないかと思う。施設に入ったら吹き抜けになっていて、多様な活動が見えることは、人をインバイト（招く、招待する）する工夫の一つになるだろう。コペンハーゲンの図書館は入り口のすぐ脇にカフェがあり、カフェ目的で訪れた人も、中へと誘い込んでいく工夫がなされていると感じる。
安岡氏	未来型図書館においては、①舞台になるような場所、②複数の人が場所を共有しながら自由に過ごせる場所、③一人になれる場所、の３要素が必要になってくるのではないかと考えている。活動が見えることは非常に重要であり、入って階段があることや吹き抜けのなかに螺旋階段があることにより全体が見渡せ、奥に進むと一人になれる空間がある等の工夫がなされている施設が最近多くなっているのではないかと感じている。
ＪＶ 李	ご指摘のとおり、人々の活動が見えることは非常に重要であると考えている。それぞれの活動が非常に有効な情報の入り口であるととらえ、空間のあり方自体を見せていけると良いと感じた。
安岡氏	「こまつのものがたり こまつのものづくり」というキーワードは非常に面白いと感じた。鍵になるのは、複合施設としての機能をどのように活性化させるかという点である。各機能が単体ではなく、どのようにまとまりをつくっていくのかといった視点や、施設の中で動線をどのように描いていくのかという物理的な検討、コンセプト的なナレッジの部分の検討が必要になってくると感じた。
ＪＶ 李	機能の融合については、建築的な空間（ハード）と運営やコンテンツ（ソフト）の検討を一体的に進めていく必要がある。それぞれがどのように重なり合うのかについて、基本計画で示していく必要があると考えている。
安岡氏	現状は施設を整備する段階のリビングラボだが、施設完成後は、施設をアップデートしていく仕組みとしてのリビングラボの存在も非常に重要である。実際に施設を使っていくなかで、施設自体に変化が必要になった場面においてリビングラボは非常に有効である。どのようにリビングラボを動かし続けていくのかについても検討していく必要があるだろう。
ＪＶ 李	基本計画の第１章で全体の目的や方針等を書き込んでいく予定であり、そのなかで、共創・リビングラボについても大きく打ち出していきたいと考えている。書きぶりについては、今後アドバイザーのみなさんにもご意見をいただきたいと考えている。
事務局 横山	「ものがたり」「ものづくり」というキーワードは今回強く出した部分である。複合施設において機能が単に複合しているだけではなく、どのように融合させていくのかは、ゾーニングの検討も含め議論を重ねているところである。また、それを実現させるために、市民も巻き込んだ小さな展示テーマづくりを実施していく仕組みづくりも必要であると考えている。

事務局 横山	リビングラボが施設の開館後もアップデートしていくという点については、まさにそのとおりである。今年度のリビングラボでも第５回は「小松モデル」をテーマに設定している。リビングラボが未来型図書館を創り続けていくという点と、いまの段階からどのような実践を重ねていくのかという点についても、今年度から検討を始めていきたいと考えている。
事務局 中山	今年度のリビングラボでは、今後の目指す姿を「ロードマップ」というかたちで、市民のみなさんにもわかりやすいようにまとめていきたいと考えている。市民のみなさんにもご意見をいただきながら一緒に描いていきたいと考えている。

②配置計画（ゾーニング図）案

資料２に基づき、ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

ＪＶ 李	第３回リビングラボの結果を分析し、配置計画（ゾーニング図）案を検討している。
吉田氏	ゾーニング案から非常にワクワクするものを感じている。通路がどのように存在し、人がどのように施設内を動いていくのかについても興味がある。目的地に最短で行きつけるだけではなく、歩いているなかで偶然的な出会いがあるような仕組みや、歩く面白さのようなものも生まれると良いのではないかと感じた。
ＪＶ 李	今後、動線計画を考えていくうえで非常に参考になった。ご指摘いただいた通路のように、第３回のワークで検討できなかった名前のつけられない機能（空間）についても設計チームとも議論し検討していきたい。
安岡氏	歩くのが面白い、意外なものに出会えるというのは非常に良いと感じた。初めての人も何度も来ている人も受け入れる場づくりが必要になってくるだろう。グループ１の「誰もが思い思いに過ごせる多様な居場所をつくる」という考え方に非常に共感し、多面的な場所づくりをしていけると良いのではないか。近年北欧では「何もしない場所」（スマートフォンを取り出したくなる気持ちにさせない場所）という考え方もある。こうした点も念頭に置けると良いのではないか。また、「イメージ」でアプローチする方法も良いのではないかと感じており、同じ言葉でも人によっては実際にイメージしているものは違う可能性がある。そうした点でのすり合わせが必要になってくるだろう。
ＪＶ 李	安岡准教授が挙げられたグループ１のまとめ方は、ものがたり性があり、そうした意味でも博物館・図書館の融合におけるテーマとも重なりをもたせていくことが可能だろう。
事務局 横山	グループ１に参加したが、ワークにおいて施設を立体的に考えている点が印象的であり、施設の中だけではなく、周囲の環境からの動線も意識しながら検討が進んでいった。

事務局 髙橋	施設の中を歩き回れるという考え方が良いと感じた。施設に行き止まりをつくらず、回遊性をもたせていきたい。また、複数のグループでリビングラボ機能を施設の中心に置いて検討されており、リビングラボの考え方が市民に根づいてきていると思い、嬉しく感じた。

（２）リビングラボについて

①第３回リビングラボ開催報告

資料３に基づき、ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

事務局 髙橋	事務局から基本計画の現段階での取り組みについて、市民のみなさんへ共有しており、今後も検討状況について、随時市民のみなさんへ共有していきたいと考えている。
安岡氏	８２名という非常に多くの参加があり、またリピーターの方もいらっしゃるということで、素晴らしいと思う。回を重ねるなかでの参加状況の動きや、参加者がどのようなことを考えているのかについても分析してみたい。プログラムについてもよく考えられており、状況について情報を開示しているのも非常に良い点であり丁寧に進めていると感じる。
安岡氏	情報の整理について、参加者の意見やアイデアが何かしらの役に立っているという実感が、満足度として参加の動機につながるため非常に重要である。市の広報誌に掲載する等の工夫はぜひ取り組んでいただきたい。すべての意見を取り入れることは最終的には不可能だが、考えたことが使われていると実感できると、たとえ採用されなかったとしても満足度を高めることにつながる。戦略的にぜひ取り組んでいただけると良いのではないかと思う。
吉田氏	非常に和気あいあいとした良いムードで取り組まれていると感じる。自由に発言するなかで、マイノリティの意見も面白がれるような、建設的な議論になっていると感じる。

②第４回リビングラボ企画案

資料４に基づき、ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

ＪＶ 李	前回、未来型図書館の施設内で検討したものを、今回は芦城公園や外との関係も含めて考えていくような内容を想定している。
吉田氏	内容を聞いてぜひ参加したいと感じた。本日は和室（畳）の会場から参加しているが、芦城公園をイメージすると茶屋のようなものがあると良いという想像も膨らんだ。
安岡氏	公園との連動について、日常とイベントの両面から検討するとのことだったが、どの程度具体的に考えていく想定か。イベントであれば、アイデアは様々出てくるのではないかと思うが、単に参加するのではなくて、自分であったら

	何を主催するかというアプローチの方法もあるかと思う。どのくらい自分自身がコミットできるかという視点が入ってくると、よりリビングラボ的になってくるのではないかと感じる。
ＪＶ 李	自分が企画者・運営者として考えていただくことを今回の条件として取り入れていきたい。
安岡氏	リビングラボには、発散のフェーズと収束のフェーズのどちらもあっても良いかと思う。今回はまだ発散のフェーズと位置づけ、少し時間が経ってから収束のフェーズをつくっていくのも良いかもしれない。

③ティーンズ版リビングラボ

資料５に基づき、事務局より説明。

【主な質疑応答・意見交換】

事務局 中山	ティーンズ世代の意見を聞いていく機会も重要という議論も踏まえ、ティーンズ世代へのアプローチとして、ティーンズ版リビングラボの開催（中学校・高校へ出向いての出張開催）と、オンラインによるアンケートの実施を始めている。
安岡氏	様々なチャネルがあり、多様な意見を聞いていくことは非常に重要。良いコメントも多く出てきているようにうかがえる。今後は分析をして、もし穴があるようであれば、そこを埋めるチャネルを新しくつくっていくと良い。

（３）マーケット・サウンディング調査の結果について

資料６に基づき、事務局ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

ＪＶ 江頭	事業手法・事業条件を探るために、３３社にヒアリングを実施した。本事業への関心について、３３社のうち２７社から関心を持っているという回答をいただいており、非常に関心度の高い事業であることがうかがえる。
事務局 竹内	カフェ事業者とも対話を進めており、冬にもう一度調査の実施を予定しているため、事業条件についてさらに詳細な内容を再度ヒアリングしていきたいと考えている。
吉田氏	カフェに関しては、みなさんの求めているイメージと近いと感じた。カフェは非常に重要だと感じており、個性を出しやすい機能でもあるのではないか。ステレオタイプではなく、芦城公園とも融合してどのように演出していくのかについて、みなさんと具体化していきたい。

次回、第５回アドバイザリーボードは２０２５年１月に開催予定。

以上